

幡多西部消防組合沿革

組合が設立されるまで

昭和 43 年 4 月 1 日	宿毛市は政令指定により、消防本部及び消防署の設置が義務づけられる。
昭和 44 年 4 月 1 日	宿毛市消防本部(署)発足。(署長以下22名)
昭和 45 年 4 月 1 日	宿毛市消防署が救急業務開始(任意)職員3名採用し25名となる。
昭和 47 年 4 月 1 日	職員4名採用29名となる。
昭和 48 年 4 月 5 日	大月町、三原村が消防本部(署)を置かなければならない町村指定(自治省告示第74号)をうける。
昭和 49 年 6 月 29 日	宿毛市、大月町、三原村が救急業務を行なわなければならない市町村指定(自治省告示第131号)をうける。

組合設立の経過

昭和 49 年 9 月 26 日	幡多西部消防組合設置及び規約制定議決(大月町議会)
昭和 49 年 10 月 14 日	〃 〃 (宿毛市議会)
昭和 50 年 1 月 31 日	〃 〃 (三原村議会)
昭和 50 年 3 月 15 日	幡多西部消防組合設置許可申請書を高知県知事に提出
昭和 50 年 3 月 31 日	初代署長 浜辺常三郎退職する、職員28名となる。
昭和 50 年 4 月 1 日	同設置許可(高知県指令50地第2号)
昭和 50 年 4 月 1 日	幡多西部消防組合本部、宿毛消防署、大月分署、三原分署設置消防長以下42名(宿毛消防署28名、大月分署10名、三原分署4名)消防自動車4台、救急車2台、広報車1台により発足。

幡多西部消防組合設立後

昭和 50 年 4 月 1 日	初代消防長(署長)に下村昌史、宿毛市より派遣される。
昭和 50 年 10 月 15 日	大月分署に指揮車を購入配備する。
昭和 51 年 5 月 11 日	日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受け、三原分署に配備する。
昭和 51 年 10 月 13 日	高知県消防職員消防操法大会において第3位となる。
昭和 52 年 7 月 24 日	日本損害保険協会より広報車の寄贈を受け本部に配備する。
昭和 53 年 1 月 1 日	本部事務吏員(女子)が宿毛市より派遣される、組合職員43名となる。
昭和 53 年 1 月 8 日	宿毛市志沢尾に防火水槽(40t)新設する。
昭和 53 年 9 月 25 日	大月分署に小型動力ポンプ付水槽車(5t)を配備する。
昭和 53 年 9 月 25 日	宿毛市山奈町竹石に防火水槽(40t)新設する。
昭和 54 年 3 月 31 日	宿毛市沖の島(弘瀬・母島)に消火栓を新設する。
昭和 54 年 3 月 31 日	大月分署に職員1名を採用11名となる、組合職員44名となる。
昭和 54 年 7 月 1 日	大月分署に消防無線(10W)移動局を配備する。
昭和 55 年 1 月 1 日	宿毛消防署に職員2名採用し31名となる、組合職員46名となる。
昭和 55 年 2 月 12 日	宿毛消防署に小型動力ポンプ付水槽車(5t)を配備する。
昭和 55 年 2 月 29 日	大月町柏島に防火水槽(40t)新設する。
昭和 55 年 3 月 28 日	宿毛市中角に防火水槽(40t)新設する。
昭和 55 年 3 月 31 日	下村昌史(消防長・署長)退職する。
昭和 55 年 4 月 1 日	岡崎隆俊(消防長)宿毛市より派遣される。
昭和 55 年 4 月 1 日	稲田正義(署長)任命。
昭和 55 年 10 月 16 日	高知県消防職員消防操法大会において第2位となる。
昭和 56 年 1 月 28 日	三原分署に消防無線固定局(10W)移動局(10W)3基を整備する。
昭和 56 年 3 月 10 日	宿毛市長田町に防火水槽(40t)新設する。
昭和 56 年 3 月 20 日	宿毛市新田に防火水槽(40t)新設する。
昭和 56 年 6 月 8 日	職員1名退職する(宿毛)職員数45名となる。
昭和 56 年 10 月 3 日	宿毛市平田町戸内に防火水槽(40t)新設する。
昭和 57 年 1 月 7 日	宿毛市新田に防火水槽(40t)新設する。
昭和 57 年 4 月 1 日	職員6名採用(宿毛3名、大月1名、三原2名)し、宿毛33名、大月12名、三原6名となる、組合職員51名となる。
昭和 57 年 8 月 10 日	日本消防協会より救急自動車の寄贈を受け大月分署に配備する。
昭和 57 年 10 月 7 日	宿毛市土居下に防火水槽(40t)新設する。
昭和 58 年 3 月 31 日	岡崎隆俊(消防長)退職する。

昭和 58 年 4 月 1 日	稲田正義(消防長・署長)任命。
昭和 58 年 4 月 1 日	宿毛市栄喜婦人消防隊結成(47名)。
昭和 58 年 9 月 1 日	幡多西部消防組合少年婦人防火委員会設置。
昭和 58 年 9 月 30 日	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈を受け宿毛消防署に配備する。
昭和 58 年 10 月 1 日	幡多西部消防組合管内の保育園児を対象に幼年消防クラブを結成。
昭和 59 年 1 月 26 日	消防庁より救急車(日本損害保険協会寄贈トヨタ2B型)の配車を受け宿毛消防署に更新配備する。
昭和 59 年 1 月 30 日	宿毛市本町、西町に防火水槽(40t)新設する。
昭和 59 年 3 月 31 日	稲田正義消防長、外1名退職する、組合職員49名となる。
昭和 59 年 4 月 1 日	東斌(消防長・署長)宿毛市より派遣される。
昭和 59 年 11 月 21 日	大月分署に消防無線基地局(消防弘見10W)を増設する。
昭和 59 年 12 月 5 日	宿毛市山奈農協前に防火水槽(40t)新設する。
昭和 60 年 3 月 29 日	大月町小才角少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会の表彰を受ける。
昭和 60 年 7 月 19 日	幼年消防クラブ育成に関し日本防火協会より、消防本部が感謝状を、大島保育園、咸陽保育園が表彰される。
昭和 60 年 7 月 30 日	大月分署指揮車を更新(トヨタカーナ1,500cc)。
昭和 60 年 11 月 1 日	宿毛市平田農協前に防火水槽(40t)新設する。
昭和 61 年 2 月 11 日	宿毛市橋上婦人防火クラブ結成(35名)。
昭和 61 年 2 月 5 日	宿毛市中角婦人防火クラブ結成(32名)。
昭和 61 年 3 月 1 日	宿毛市消防団が消防庁長官より表彰旗を受賞。
昭和 61 年 4 月 1 日	職員1名採用(宿毛)組合職員51名となる。
昭和 61 年 4 月 1 日	宿毛市鶴来島婦人消防隊結成(38名)。
昭和 61 年 4 月 1 日	宿毛市平田婦人防火クラブ結成(39名)。
昭和 61 年 4 月 1 日	大月町橋浦婦人防火クラブ結成(12名)。
昭和 61 年 6 月 5 日	大月保育園幼年消防クラブが日本防火協会より鼓笛隊セットの寄贈を受ける。
昭和 61 年 10 月 6 日	消防無線全国波を増波する(救急車、ポンプ自動車、広報車)。
昭和 61 年 11 月 21 日	日本防火協会より防火広報車(宝くじ号)を寄贈される。
昭和 62 年 2 月 27 日	宿毛市松田町に防災町づくり事業で防火水槽(40t)新設する。
昭和 62 年 3 月 31 日	東斌(消防長・署長)退任する。
昭和 62 年 4 月 1 日	高石光喜(消防長・署長)宿毛市より派遣される。
昭和 62 年 4 月 1 日	大月町弘見婦人防火クラブ結成(9名)。
昭和 62 年 8 月 28 日	日本防火協会より栄喜婦人消防隊が小型動力ポンプ(B1級)の寄贈を受ける。
昭和 62 年 10 月 20 日	高知県消防職員操法大会において敢闘賞を受賞する。
昭和 63 年 1 月 1 日	幡多西部消防組合、組合議会定例会年4回を年2回に改める。
昭和 63 年 4 月 7 日	幡多西部消防組合規約を改正し組合長、副組合長、収入役、を充て職とする。
昭和 63 年 9 月 9 日	宿毛幼稚園幼年消防クラブが日本防火協会より鼓笛隊セットの寄贈を受ける。
昭和 63 年 9 月 9 日	幡多西部消防組合が、高知県農業共済連合会より、指令車(イスズ1,500cc)の寄贈を受ける。
平成 元 年 3 月 31 日	職員1名退職する(宿毛)組合職員50名となる。
平成 元 年 4 月 1 日	職員1名採用(宿毛)組合職員51名となる。
平成 元 年 10 月 20 日	三原保育園幼年消防クラブが日本防火協会より、鼓笛隊セットの寄贈を受ける。
平成 元 年 11 月 8 日	高知県消防職員操法大会において第3位となる。
平成 2 年 1 月 1 日	大月町頭集に婦人防火クラブ結成(15名)。
平成 2 年 1 月 30 日	幡多西部消防組合(三原分署)が日本自動車工業会より、救急自動車(2B型)の寄贈を受ける。
平成 2 年 3 月 31 日	宿毛市沖須賀に防災町づくり事業で防火水槽(40t)新設する。
平成 2 年 8 月 17 日	日本消防協会より、救急自動車(2B型)の寄贈を受け、宿毛消防署に更新配備する。
平成 2 年 9 月 1 日	宿毛市高石婦人防火クラブ結成(15名)。
平成 2 年 10 月 25 日	高知県消防職員操法大会において優勝する。
平成 3 年 2 月 15 日	大月町柏島に防火水槽(40t)新設する。
平成 3 年 3 月 31 日	高石光喜(消防長・署長)退任する。
平成 3 年 4 月 1 日	中西康善(消防長・署長)宿毛市より派遣される。
平成 3 年 4 月 1 日	職員1名採用(大月)組合職員52名となる。
平成 3 年 10 月 8 日	高知県消防職員操法大会において第3位となる。
平成 3 年 10 月 18 日	咸陽保育園(宿毛市)が日本防火協会より、ビデオセットの寄贈を受ける。
平成 3 年 12 月 10 日	大月町(鉾土)に防火水槽(40t)新設する。
平成 4 年 1 月 19 日	三原分署長死亡により組合職員51名となる。
平成 4 年 3 月 31 日	三原分署に消防指揮車を配備する。
平成 4 年 4 月 1 日	職員1名採用(三原)組合職員52名となる。
平成 4 年 10 月 26 日	日本防火協会より鶴来島婦人消防隊が小型動力ポンプ(B1級)の寄贈を受ける。
平成 4 年 11 月 27 日	離島振興協議会より、三菱軽ポンプ車の寄贈を受ける(沖の島)。
平成 5 年 1 月 21 日	幡多西部消防組合に救助工作車、資器材1式を整備し救助体制の強化を図る。

平成	5年	2月16日	栄喜婦人消防隊が、財団法人日本消防協会より表彰される。
平成	5年	3月9日	安田生命保険相互会社より、救急車(2B型)の寄贈を受け大月分署に更新配備する。
平成	5年	3月31日	中西康善(消防長・署長)外1名退職する、組合職員50名となる。
平成	5年	4月1日	安本武夫(消防長・署長)宿毛市より派遣される。
平成	5年	4月1日	職員1名採用(宿毛)組合職員52名となる。
平成	5年	10月5日	高知県消防職員操法大会において敢闘賞を受賞する。
平成	5年	11月29日	片島少年消防クラブが、財団法人日本消防協会より表彰される。
平成	6年	1月21日	救急処置高度化による資器材9品目整備する。
平成	6年	3月30日	宿毛消防署に訓練塔(主塔)を設置する。
平成	6年	3月31日	安本武夫(消防長・署長)退職する。
平成	6年	4月1日	羽賀豊(消防長)宿毛市より派遣される。
平成	6年	4月1日	楠目繁雄(署長)任命。
平成	6年	8月16日	日本損害保険協会より、消防ポンプ自動車(三菱CD-1型4WD)の寄贈を受け、宿毛消防署に配備する。
平成	6年	8月31日	職員1名退職する(三原)組合職員51名となる。
平成	6年	12月21日	大月分署のポンプ自動車を(三菱CD-1型4WD)に更新する。
平成	6年	12月31日	職員1名退職する(宿毛)組合職員50名となる。
平成	7年	1月21日	兵庫県南部地震応援派遣(消防隊2名派遣)。
平成	7年	5月1日	職員1名採用(三原)組合職員51名となる。
平成	7年	6月12日	救命ボート6人乗り、船外機付を購入、宿毛消防署に配備する。
平成	8年	3月31日	羽賀豊(消防長)外2名退職する、組合職員48名となる。
平成	8年	4月1日	松岡陽一(消防長)宿毛市より派遣される。
平成	8年	4月1日	職員4名採用(宿毛3名、大月1名)組合職員53名となる。
平成	8年	5月7日	救急救命士国家試験に1名合格。幡多西部消防組合初の救急救命士となる。
平成	9年	2月14日	生活協同組合、全日本消防人共済会より大月町消防団に広報車(トヨタ1,800cc)の寄贈を受け配備する。
平成	9年	3月28日	宿毛消防署に訓練塔(副塔)を設置する。
平成	9年	3月31日	職員4名退職する(宿毛)組合職員49名となる。
平成	9年	4月1日	職員3名採用(宿毛)組合職員52名となる。
平成	9年	4月1日	小才角婦人消防クラブ発足。(25名)
平成	9年	10月9日	幡多西部消防組合少年婦人防火委員会が、財団法人日本防火協会より表彰される。
平成	9年	10月22日	高知県共済農業協同組合連合会より、救急車の寄贈を受け、宿毛消防署に配備する。
平成	10年	4月1日	職員1名採用(大月)組合職員53名となる。
平成	10年	8月11日	職員1名退職する(大月)組合職員52名となる。
平成	10年	11月1日	沖の島婦人消防隊発足。(29名)
平成	10年	12月2日	大月分署の小型動力ポンプ付水槽車(5t)を更新配備する。
平成	11年	1月4日	職員1名退職する(三原)組合職員51名となる。
平成	11年	3月31日	楠目繁雄(署長)退職する組合職員50名となる。
平成	11年	3月31日	松岡陽一(消防長)退任する。
平成	11年	4月1日	中田和夫(消防長)宿毛市より派遣される。
平成	11年	4月1日	松田雄三(署長)任命。
平成	11年	4月1日	職員3名採用(宿毛、大月、三原)組合職員53名となる。
平成	12年	3月31日	職員2名退職(宿毛、大月)組合職員51名となる。
平成	12年	4月1日	職員2名採用(宿毛、大月)組合職員53名となる。
平成	12年	4月1日	母島婦人消防隊発足。(11名)
平成	13年	3月23日	宿毛消防署の小型動力ポンプ付水槽車(5t)を更新配備する。
平成	13年	3月31日	中田和夫(消防長)外1名退職する。
平成	13年	4月1日	職員1名採用(大月)組合職員53名となる。
平成	13年	4月1日	岡本光世(消防長)宿毛市より派遣される。
平成	13年	12月6日	高知県知事より小才角婦人防火クラブが表彰される。
平成	14年	3月26日	日本損害保険協会より高規格救急車の寄贈を受け、宿毛消防署に配備する。
平成	14年	3月28日	高知はた農業協同組合、全国共済連高知県本部より救急車が寄贈され、大月分署に配備する。
平成	14年	3月31日	職員1名退職する。(宿毛)
平成	14年	4月1日	職員1名採用(宿毛)組合職員53名となる。
平成	15年	3月31日	岡本光世(消防長)退職する。
平成	15年	3月31日	松田雄三(署長)退職する。

平成 15 年	4 月	1 日	三代木健司(消防長)宿毛市より派遣される。
平成 15 年	4 月	1 日	河野通孝(署長)任命。
平成 15 年	4 月	1 日	職員1名採用(宿毛)組合職員53名となる。
平成 16 年	3 月	31 日	職員2名退職する。(宿毛)
平成 16 年	4 月	1 日	職員1名宿毛市より派遣される。
平成 16 年	4 月	1 日	職員1名採用(宿毛)組合職員53名となる。
平成 17 年	3 月	31 日	河野通孝(署長)外2名退職する。
平成 17 年	3 月	31 日	職員1名宿毛市からの派遣を解く。
平成 17 年	4 月	1 日	小野司(署長)任命。
平成 17 年	4 月	1 日	職員4名採用(宿毛)組合職員53名となる。
平成 18 年	3 月	31 日	小野司(署長)外2名退職する。
平成 18 年	4 月	1 日	藤田雅志(署長)任命。
平成 18 年	4 月	1 日	職員3名採用(宿毛)組合職員53名となる。
平成 19 年	3 月	31 日	三代木健司(消防長)退職する。
平成 19 年	4 月	1 日	谷本秀世(消防長)外1名宿毛市より派遣される。
平成 19 年	4 月	1 日	幡西衛生処理組合と統合する。
平成 20 年	3 月	31 日	谷本秀世消防長外3名(宿毛)(大月)退職する。
平成 20 年	4 月	1 日	職員5名(宿毛)、1名(大月)計6名採用。組合職員55名となる。
平成 20 年	4 月	1 日	藤田雅志(消防長)任命。竹村和喜(署長)任命。
平成 20 年	4 月	16 日	全国共済農業協同組合連合会より救急車が寄贈され、三原分署へ配備する。
平成 20 年	12 月	10 日	大月分署 高規格救急車を新規配備する。
平成 22 年	1 月	15 日	宿毛消防署 高規格救急車を新規配備する。
平成 22 年	3 月	31 日	藤田雅志(消防長)、森田隆(署長補佐)、尾崎廣行(三原分署分署長)退職する。
平成 22 年	4 月	1 日	竹村和喜(消防長)、藤田隆男(宿毛消防署署長)、矢野泰弘(三原分署分署長)任命。
平成 22 年	4 月	1 日	職員3名(宿毛)、1名(大月)、1名(三原)計5名採用。組合職員56名となる。
平成 23 年	4 月	1 日	職員1名(大月)採用。組合職員57名となる。
平成 24 年	3 月	31 日	川本義文(大月分署分署長)、家方孝(大月分署補佐)退職する。
平成 24 年	4 月	1 日	職員1名(大月)採用。組合職員56名となる。
平成 25 年	3 月	31 日	竹村和喜(消防長)退職する。
平成 25 年	4 月	1 日	弘瀬徳宏(消防長)1名宿毛市より派遣される。
平成 25 年	4 月	1 日	職員1名(宿毛)、2名(三原)計3名採用。組合職員59名となる。
平成 25 年	5 月	31 日	宿毛消防署 宿毛市和田1412-1に新庁舎完成 運用開始となる。
平成 25 年	7 月	1 日	萩原婦人消防隊発足。(9名)
平成 25 年	7 月	9 日	宿毛消防署 ポンプ自動車(CD-I 型)を新規配備する。
平成 26 年	2 月	25 日	宿毛消防署 全国共済農業協同組合連合会より高度救急資器材が寄贈され、合わせて高規格救急車を新規配備する。
平成 26 年	3 月	31 日	兼松直喜(大月分署分署長)退職する。
平成 26 年	4 月	1 日	職員1名(宿毛)、1名(大月)、1名(三原)計3名採用。組合職員61名となる。
平成 26 年	4 月	1 日	橋上少年消防隊発足(3名)
平成 27 年	3 月	31 日	上岡康敏(大月分署分署長)、矢野泰弘(三原分署分署長)退職する。
平成 27 年	4 月	1 日	職員1名(宿毛)、2名(大月)計3名採用。組合職員62名となる。
平成 28 年	3 月	31 日	弘瀬徳宏(消防長)、藤田隆男(宿毛消防署署長)、山岡博文(大月分署分署長)、佐伯豊彦(大月分署分署長補佐)、新谷義典(三原分署分署長補佐)退職する。
平成 28 年	4 月	1 日	沢田清隆(消防長)1名宿毛市より派遣される。
平成 28 年	4 月	1 日	上野浩由紀(署長)任命。
平成 28 年	4 月	1 日	職員1名(大月)、1名(三原)計2名採用。組合職員60名となる。
平成 29 年	4 月	1 日	職員1名(大月)採用。組合職員61名となる。
平成 29 年	7 月	31 日	職員1名(大月)退職。組合職員60名となる。
平成 30 年	4 月	1 日	職員1名(宿毛)、2名(大月)、1名(三原)計4名採用。組合職員64名となる。
平成 31 年	3 月	31 日	沢田清隆(消防長)、中内靖(三原分署分署長)退職する。
平成 31 年	4 月	1 日	上野浩由紀(消防長)任命。有田修(署長)任命。
平成 31 年	4 月	1 日	職員1名(宿毛)採用。組合職員63名となる。
平成 31 年	4 月	1 日	幡多西部消防組合に救助工作車及び救助資器材一式を更新配備する。
令和 元 年	12 月	31 日	職員1名(宿毛)退職。組合職員62名となる。
令和 2 年	3 月	31 日	上野浩由紀(消防長)退職する。組合職員61名となる。
令和 2 年	4 月	1 日	楠目健一(消防長)1名宿毛市より派遣される。組合職員62名となる。
令和 2 年	7 月	31 日	職員1名(大月)退職。組合職員61名となる。
令和 3 年	1 月	27 日	宿毛消防署 高規格救急車を更新する。
令和 3 年	4 月	1 日	職員1名(宿毛)、2名(大月)計3名採用。組合職員64名となる。
令和 3 年	9 月	30 日	職員1名(宿毛)退職。組合職員63名となる。
令和 4 年	3 月	31 日	有田修(署長)、濱田知(大月分署分署長)退職する。組合職員61名となる。
令和 4 年	4 月	1 日	職員2名(宿毛)、採用。組合職員63名となる。
令和 4 年	4 月	12 日	全国農業協同組合より指揮支援車が寄贈される。
令和 5 年	3 月	31 日	楠目健一(消防長)、藤岡正弘(宿毛消防署省長補佐)、職員1名退職。職員60名
令和 5 年	4 月	1 日	山岡敏樹(消防長)1名宿毛市より派遣される。
令和 5 年	4 月	1 日	職員1名(宿毛)採用。組合職員62名となる。
令和 6 年	4 月	1 日	職員1名(宿毛)採用。組合職員63名となる。
令和 6 年	6 月	28 日	宿毛消防署 水槽車の更新としてタンク車を配備する。

位置及び地勢

幡多西部消防組合は、高知県の西部に位置し、宿毛市、大月町、三原村からなり、面積474.52km²、人口24,904人(令和3年国調)を有する地域である。この地域には平たん部が少なく、林野率が82%に達しているが、二級河川松田川、国道56号線が東西に走り、西に宿毛駅があり、南に国道321号線が足摺宇和海国立公園を結んでおり、一般的に温暖多雨で海岸部には、無霜地帯があるなど、木材、農産物、魚介類等の生育に最も適した自然条件を備えている。

市町村勢

宿 毛 市	国勢調査 (令和2年10月 1日)	人 口	19,044 人
		世帯数	8,568 世帯
	住民基本台帳 (令和6年 4月 1日)	人 口	18,640 人
		世帯数	9,815 世帯

大 月 町	国勢調査 (令和2年10月 1日)	人 口	4,432 人
		世帯数	2,198 世帯
	住民基本台帳 (令和5年 4月 1日)	人 口	4,582 人
		世帯数	2,521 世帯

三 原 村	国勢調査 (令和2年10月 1日)	人 口	1,440 人
		世帯数	658 世帯
	住民基本台帳 (令和5年 4月 1日)	人 口	1,435 人
		世帯数	759 世帯

消防庁舎の現況

消防本部消防署 所在地 高知県宿毛市和田1412番地1

		延面積(㎡)	建築面積(㎡)	敷地面積(㎡)	構 造	建築年月
組合本部・宿毛消防署	事務室	204.00	1,393.82	3,307.82	鉄筋コンクリート造り 2階建(主訓練棟のみ5階建)	平成25年5月
	会議室	84.00				
	仮眠室(全20室)	152.00				
	受付・通信室	36.00				
	出動準備室	73.00				
	車庫	376.00				
	食堂	70.00				
	多目的ホール	144.00				
	主訓練棟	335.83				
	階段・廊下その他計	1,317.22 2,792.05				

※ 内宿毛市防災センター部分 1,368.10㎡

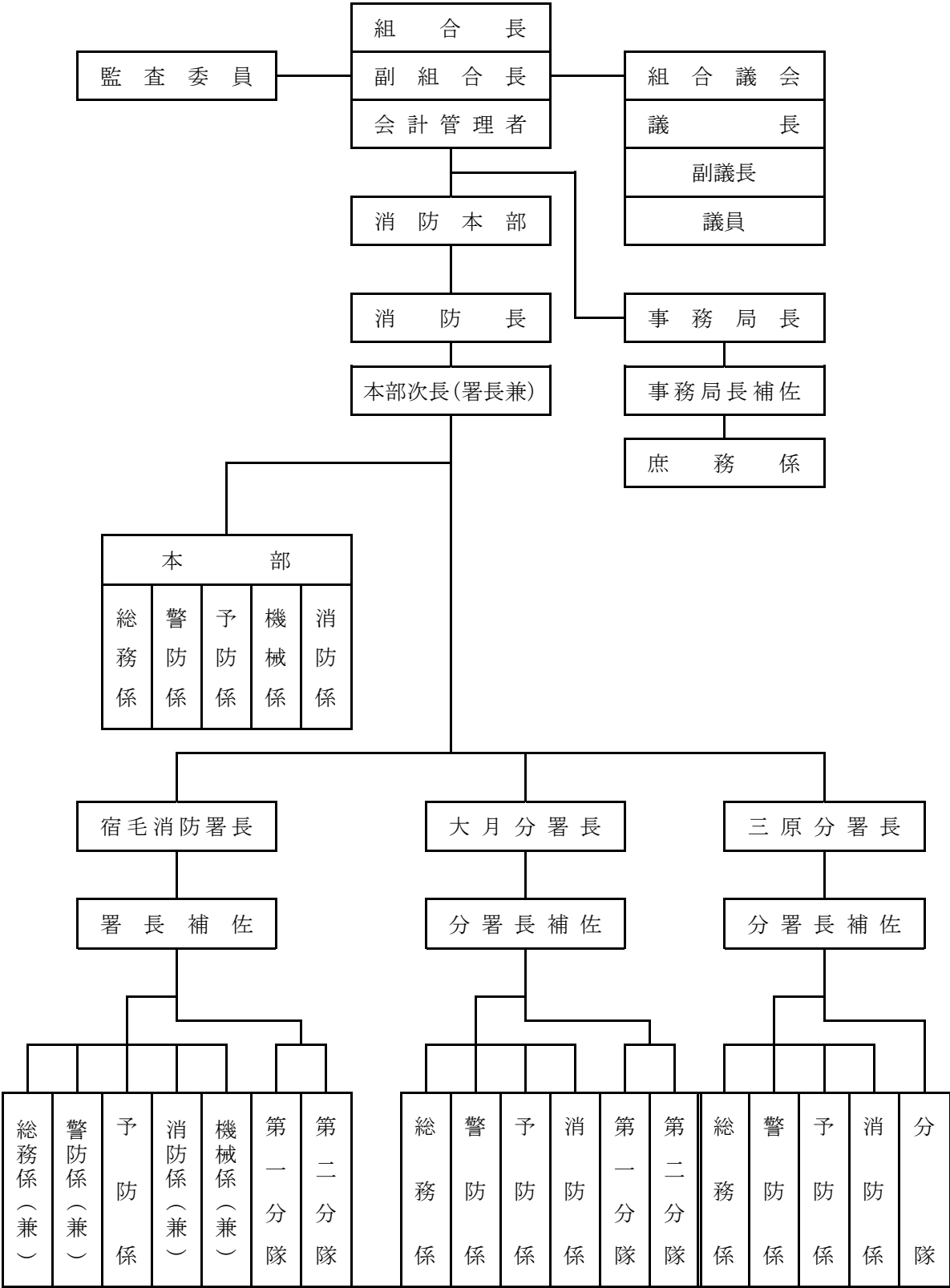
大月分署 所在地 高知県幡多郡大月町弘見2106-1番地

		延面積(㎡)	建築面積(㎡)	敷地面積(㎡)	構 造	建築年月
大月分署	分署長室・事務室	33.00	184.00	574.80	鉄筋コンクリート造り 2階建	昭和51年3月
	会議室	55.00				
	仮眠室	27.00				
	食堂	13.50				
	浴室・洗面所	9.00				
	受付室	18.00				
	待機室	23.66				
	倉庫	27.00				
	車庫	22.50				
	階段・廊下その他計	88.34 51.00 368.00				

三原分署 所在地 高知県幡多郡三原村来栖野347-1番地

		延面積(㎡)	建築面積(㎡)	敷地面積(㎡)	構 造	建築年月
三原分署	待機室兼事務室	247.8 (消防専有部分)	村役場と合同庁舎		鉄筋コンクリート造り 2階建	昭和51年12月

消防機構



組合管理者・消防議会議員等名簿

(令和6年4月1日現在)

職 名	氏 名	備 考
組 合 長	中 平 富 宏	宿毛市長
副 組 合 長	岡 田 順 一	大月町長
〃	田 野 正 利	三原村長
会 計 管 理 者	佐 藤 恵 介	宿毛市会計管理者
出 納 員	大 野 三 鈴	大月町会計管理者
〃	内 岡 博 幸	三原村会計管理者
議 長	川 村 三 千 代	宿毛市議会議長
副 議 長	谷 正 美	大月町議会議長
議 員	依 岡 一 生	大月町議会議員
〃	寺 田 公 一	宿毛市議会議員
〃	大 倉 民 雄	三原村議会議長
〃	新 谷 和 幸	三原村議会議員
監 査 委 員	東 嘉 人	識見を有する者
〃	依 岡 一 生	組合議員より選出

歴代消防長

(令和6年4月1日現在)

年 代	氏 名	在 職 期 間	在職年数	備 考
初代	下 村 昌 史	自昭和 50 年 4 月 1 日 至昭和 55 年 3 月 31 日	5 年	署長兼務
2代	岡 崎 隆 俊	自昭和 55 年 4 月 1 日 至昭和 58 年 3 月 31 日	3 年	
3代	稲 田 正 義	自昭和 58 年 4 月 1 日 至昭和 59 年 3 月 31 日	1 年	署長兼務
4代	東 斌	自昭和 59 年 4 月 1 日 至昭和 62 年 3 月 31 日	3 年	署長兼務
5代	高 石 光 喜	自昭和 62 年 4 月 1 日 至平成 3 年 3 月 31 日	4 年	署長兼務
6代	中 西 康 善	自平成 3 年 4 月 1 日 至平成 5 年 3 月 31 日	2 年	署長兼務
7代	安 本 武 夫	自平成 5 年 4 月 1 日 至平成 6 年 3 月 31 日	1 年	署長兼務
8代	羽 賀 豊	自平成 6 年 4 月 1 日 至平成 8 年 3 月 31 日	2 年	
9代	松 岡 陽 一	自平成 8 年 4 月 1 日 至平成 11 年 3 月 31 日	3 年	
10代	中 田 和 夫	自平成 11 年 4 月 1 日 至平成 13 年 3 月 31 日	2 年	
11代	岡 本 光 世	自平成 13 年 4 月 1 日 至平成 15 年 3 月 31 日	2 年	
12代	三 代 木 健 司	自平成 15 年 4 月 1 日 至平成 19 年 3 月 31 日	4 年	
13代	谷 本 秀 世	自平成 19 年 4 月 1 日 至平成 20 年 3 月 31 日	1 年	
14代	藤 田 雅 志	自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 22 年 3 月 31 日	2 年	
15代	竹 村 和 喜	自平成 22 年 4 月 1 日 至平成 25 年 3 月 31 日	3 年	
16代	弘 瀬 徳 宏	自平成 25 年 4 月 1 日 至平成 28 年 3 月 31 日	3 年	
17代	沢 田 清 隆	自平成 28 年 4 月 1 日 至平成 31 年 3 月 31 日	3 年	

年 代	氏 名	在 職 期 間	在職年数	備 考
18代	上 野 浩 由 紀	自平成 31 年 4 月 1 日 至令和 2 年 3 月 31 日	1 年	
19代	楠 目 健 一	自令和 2 年 4 月 1 日 至令和 5 年 3 月 31 日	3 年	
20代	山 岡 敏 樹	自令和 5 年 4 月 1 日		

歴代消防署長

(令和6年4月1日現在)

年 代	氏 名	在 職 期 間	在職年数	備 考
初代	下 村 昌 史	自昭和 50 年 4 月 1 日 至昭和 55 年 3 月 31 日	5 年	消防長兼務
2代	稲 田 正 義	自昭和 55 年 4 月 1 日 至昭和 59 年 3 月 31 日	4 年	消防長兼務(1年)
3代	東 斌	自昭和 59 年 4 月 1 日 至昭和 62 年 3 月 31 日	3 年	消防長兼務
4代	高 石 光 喜	自昭和 62 年 4 月 1 日 至平成 3 年 3 月 31 日	4 年	消防長兼務
5代	中 西 康 善	自平成 3 年 4 月 1 日 至平成 5 年 3 月 31 日	2 年	消防長兼務
6代	安 本 武 夫	自平成 5 年 4 月 1 日 至平成 6 年 3 月 31 日	1 年	消防長兼務
7代	楠 目 繁 雄	自平成 6 年 4 月 1 日 至平成 11 年 3 月 31 日	5 年	
8代	松 田 雄 三	自平成 11 年 4 月 1 日 至平成 15 年 3 月 31 日	4 年	
9代	河 野 通 孝	自平成 15 年 4 月 1 日 至平成 17 年 3 月 31 日	2 年	
10代	小 野 司	自平成 17 年 4 月 1 日 至平成 18 年 3 月 31 日	1 年	
11代	藤 田 雅 志	自平成 18 年 4 月 1 日 至平成 20 年 3 月 31 日	2 年	
12代	竹 村 和 喜	自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 22 年 3 月 31 日	2 年	
13代	藤 田 隆 男	自平成 22 年 4 月 1 日 至平成 28 年 3 月 31 日	6 年	
14代	上 野 浩 由 紀	自平成 28 年 4 月 1 日 至平成 31 年 3 月 31 日	3 年	
15代	有 田 修	自平成 31 年 4 月 1 日 至令和 3 年 3 月 31 日	2 年	
16代	大 海 則 次	自令和 3 年 4 月 1 日		

消防吏員勤続年数調

(令和6年4月1日現在)

階級別 年数	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計
5年未満						7	7
5年以上 10年未満				3	2	4	9
10年以上 15年未満				12			12
15年以上 20年未満			13	0			13
20年以上 25年未満		0	6				6
25年以上 30年未満		3	7				10
30年以上	1	3					4
計	1	6	26	15	2	11	61

消防職員配置状況

(令和6年4月1日現在)

階級別 本(分)署	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	その他	計
実 員	1	6	26	15	2	11		61
消防長	1							1
次 長		1						1
総務係		1	2	2		2		7
予防係			5	1				6
警防係			5	1	1	1		8
機械係			5	1				6
消防係			3	1		3		7
宿毛消防署	1	2	20	6	1	7		37
大 月 分 署		2	5	5	1	3		16
三 原 分 署		2	1	4		1		8
航空隊派遣								

■ は兼務かつ内数

消防隊・救急隊編成表

(令和6年4月1日現在)

(宿毛消防署)

分 隊 \ 階級別		消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 長	消 防 副 長	消 防 士	計
第1分隊	隊長		1				14
	隊員		7	2		4	
第2分隊	隊長		1				15
	隊員		6	4	1	3	
第1救急隊	隊長		1				3
	隊員			1		1	
第2救急隊	隊長		1				3
	隊員			1		1	
計			15	6	1	7	29
			2	2		2	6

は兼務

(大月分署)

分 隊 \ 階級別		消 防 司 令 補	消 防 長	消 防 副 長	消 防 士	計
第1分隊	隊長	1				7
	隊員	2	2	1	1	
第2分隊	隊長	1				7
	隊員	1	3	0	2	
第1救急隊	隊長	1				3
	隊員		1		1	
第2救急隊	隊長	1				3
	隊員		1		1	
計		5	5	1	3	14
		2	2		2	6

は兼務

(三原分署)

分 隊 \ 階級別	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 長	消 防 副 長	消 防 士	計
消 防 隊	2	1	4		1	8
救 急 隊		1	1		1	3
計	2	1			1	8
		1	1		1	3

は兼務

消防事務分掌

消防本部

総務係

1. 消防本部の広域的連携に関すること。
2. 署、分署の連絡調整に関すること。
3. 消防統計に関すること。
4. 消防職員委員会に関すること。
5. 他の係及び事務局に属さない事項に関すること。

予防係

1. 予防対策に関すること。
2. 防火管理者の講習等に関すること。
3. 予防統計に関すること。
4. 危険物の許認可及び検査に関すること。
5. 建築同意に関すること。
6. 防火対象物の規制に関すること。
7. 防火対象物・自衛消防組織の訓練に関すること。
8. 火災の原因調査等に関すること。
9. その他予防事務に関すること。

警防係

1. 消防及び水防計画に関すること。
2. 救急業務に関すること。
3. 警報の発令等に関すること。
4. 総合訓練等に関すること。
5. その他警防事務に関すること。

機械係

1. 消防及び水防機械器具の整備点検に関すること。
2. 無線通信に関すること。
3. その他機械事務に関すること。

消防係

1. 消防団との連絡調整に関すること。
2. 幡西消防団連絡協議会に関すること。

事務局

1. し尿処理施設に関すること。
2. 人事、給与、服務に関すること。
3. 条例規則に関すること。
4. 組合議会に関すること。
5. 監査事務に関すること。
6. 予算、決算その他経理に関すること。
7. 公印の保管、文書の収発に関すること。
8. 財産の管理に関すること。

消防署

総務係

1. 庁舎の維持管理に関すること。
2. 公印の保管、文書の収発に関すること。
3. 会計経理に関すること。
4. 署員の研修、服務に関すること。
5. 署員の福利厚生に関すること。
6. 他の係に属しない事項に関すること。

予防係

1. 予防査察に関すること。
2. 防火思想の普及及び宣伝等に関すること。
3. 火災予防条例の各種届出に関すること。
4. 防火対象物関係の訓練に関すること。
5. 危険物の取扱に関すること。
6. 建築同意に関すること。
7. 防火管理者の指導育成に関すること。
8. 罹災証明に関すること。
9. 火災の調査報告に関すること。
10. その他予防に関すること。

警防係

1. 水、火災の警防計画に関すること。
2. 水、火災の警戒防御に関すること。
3. 気象通報及び災害の警報発令に関すること。
4. 消防訓練の実施に関すること。
5. 消防の地理、水利の点検及び調査に関すること。
6. 職員の勤務割に関すること。
7. 救助、救急の訓練に関すること。
8. 人命救助に関すること。
9. 救急業務及び医療機関との連絡調整に関すること。
10. その他警防に関すること。

機械係

1. 機械器具の維持管理に関すること。
2. 消防用機械器具台帳の整理及び管理に関すること。
3. 通信施設の運用管理に関すること。
4. その他機械に関すること。

消防係

1. 消防団（以下「団」という）との連絡調整に関すること。
2. 団予算の執行に関すること。
3. 団員の消防訓練、教養の実施、計画に関すること。
4. 幡西消防団連絡協議会等に関すること。
5. 表彰事務に関すること。
6. その他団事務に関すること。

分 隊

1. 水、火災の予防警戒及び鎮圧に関すること。
2. 救急、救助業務に関すること。
3. その他分隊に関すること。

分署の事務分掌

1. 文書の収発及び記録の整理保全に関する事。
2. 公印の保管に関する事。
3. 会計経理に関する事。
4. 庁舎の維持管理及び諸物品の保管に関する事。
5. 署員の研修、服務に関する事。
6. 署員の福利厚生に関する事。
7. 予防査察に関する事。
8. 防火思想の普及及び宣伝に関する事。
9. 火災予防条例の各種届出に関する事。
10. 罹災証明に関する事。
11. 火災の調査報告に関する事。
12. 防火対象物関係の訓練に関する事。
13. 建築同意に関する事。
14. 水、火災その他災害の警報連絡及び消防通信に関する事。
15. 消防の地理、水利の点検及び調査に関する事。
16. 消防、水防用器具等の整理保全に関する事。
17. 消防訓練の実施に関する事。
18. 救助、救急の訓練に関する事。
19. 通信施設の運用管理に関する事。
20. その他分署に関する事。
21. その他団事務に関する事。

消防組合決算財源内訳

(単位:千円)

財源 年度	決算額 (A)	国・県 支出金	使用料 手数料	財 産 収 入	諸収入	地方債	税 等 (B)	B A ×100
3年度	616,519	0	24,367	0	7,290	0	584,861	94.9
4年度	626,660	0	23,661	0	439	0	602,889	96.2
5年度	667,919	0	23,271	0	570	0	645,981	96.7

令和5年度決算

歳 入

(単位:円)

款	予算現額	調定額	収入済額	収入未済額
1. 分担金及び負担金	663,382,000	645,980,975	645,980,975	0
2. 使用料及び手数料	24,744,000	23,270,820	23,270,820	0
3. 財 産 収 入	1,000	0	0	0
4. 繰 越 金	331,000	330,000	330,000	0
5. 諸 収 入	433,000	570,348	570,348	0
6. 国・県支出金				0
歳 入 合 計	688,891,000	670,152,143	670,152,143	0

歳 出

款	予算現額	支出済額	翌年度繰越	不用額
1. 議 会 費	77,000	67,680	0	9,320
2. 総 務 費	49,953,000	47,268,763	0	2,684,237
3. 常 備 消 防 費	480,966,000	466,896,116	0	14,069,884
4. 衛 生 施 設 費	157,695,000	153,686,584	2,222,000	1,786,416
5. 予 備 費	200,000			200,000
歳 出 合 計	688,891,000	667,919,143	2,222,000	18,749,857

※ 幡多西部消防組合(衛生費)も含む。

地方交付税の消防費基準財政需要額及び消防費決算額

(単位:千円)

区分 市町村別	消 防 費 基 準 財 政 需 要 額			令和5年度 3 市 町 村 消 防 費 決 算 額
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
宿毛市	353,831	360,272	365,841	380,731
大月町	156,078	166,693	175,960	272,984
三原村	58,804	61,836	65,598	72,610
計	568,713	588,801	607,399	726,325

市町村一般会計決算額と消防組合決算額

(単位:千円)

区分 年度	3市町村一般会計決算額	消防組合決算額(常備のみ)	比 率
3年度	29,041,007	466,287	1.61 %
4年度	25,257,905	461,140	1.83 %
5年度	22,186,622	466,896	2.10 %

人口・世帯数に対する組合消防費と火災損害額

(単位:円)

区分 年度	住民一人当たり		一世帯当たり	
	消防費	火災損害額	消防費	火災損害額
3年度	26,672	1,883	49,809	3,931
4年度	25,082	227	47,632	430
5年度	26,599	868	50,558	1,655

消防職員及び消防車に対する比較

区 分	人 口	世帯数	面 積
消防職員一人当たり	413 人	217 戸	7.8 km ²
消防車一台当たり	6,299 人	3,303 戸	118.6 km ²
救急車一台当たり	6,299 人	3,303 戸	118.6 km ²

※令和6年4月1日住民基本台帳より算出

消防職員諸手当調

(令和6年4月1日現在)

区分	支給単位	金 額	摘 要
夜間勤務手当	1当務	$\frac{25}{100}$	当務者が22時から翌日5時の間に1時間勤務したとき
夜間特殊業務手当	〃	410円	当務者が22時から翌日5時の間に受付勤務したとき
休日勤務手当	1日	$\frac{135}{100} \times 7$ 時間45分	交替勤務者全員
特殊勤務手当	機関員	380円	火災・救助・救急・搜索
	その他	240円	〃
	救命士	510円	救急

消防職員研修終了状況

(令和6年4月1日現在)

年度別 区 分		令和元年	2	3	4	5	合計
消防大学	上級幹部科						
	警防科	1					1
	危険物科						
	予防科						
	救急科						
高知県消防学校・専科教育	初任教育	1		3	2	1	7
	救急標準課程	1		3	2	1	7
	予防課程 (査察科)	2		2		2	6
	火災調査課程		3		2		5
	警防課程 (警防科)	3	2	2	1	1	9
	救助課程 (救助科)	4	1		1	3	9
	幹部科	1			1	1	3
	若年層研修	2	2	2	2	1	9
	火災性状体験研修	2	2	5	5	4	18
	地域防災指導者研修	2	3	1	3	2	11
	火災性状指導者研修		1	1	1	1	4

消防職員資格

(令和6年4月1日現在)

種 別	署分署別人員	本 部 宿毛消防署	大月分署	三原分署	計
大型第1種免許		33	13	1	47
(準)中型第1種免許		6		7	13
普通第1種免許		36	16	8	60
第2級陸上特殊無線技師		35	14	8	57
危険物取扱者免許(乙種4類)		30	11	7	48
小型船舶免許		22	0	2	24
応急手当指導員		34	16	8	58
小型移動式クレーン技能士		30	3	3	36
玉掛け技能士		31	4	3	38
救急救命士		13	10	6	29

消防吏員年齢調

(令和6年4月1日現在)

階級別 年齢別	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計
20歳未満						1	1
20歳～24歳						4	4
25歳～29歳				3		5	8
30歳～34歳			2	9	2	1	14
35歳～39歳			6	3			9
40歳～44歳			8				8
45歳～49歳		1	7				8
50歳～54歳		2	3				5
55歳～59歳	1	3					4
計	1	6	26	15	2	11	61

消防吏員階級調

(令和6年4月1日現在)

階級別 区分	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計
本部・宿毛消防署	1	2	20	6	1	7	37
大月分署		2	5	5	1	3	16
三原分署		2	1	4		1	8
計	1	6	26	15	2	11	61